

緊急発表

問い合わせ：セバスチャン・バーナード（地域広報とマーケティング責任者、 IBAP）

Email : [sebastien.barnard@ibo.org](mailto:sebastien.barnard@ibo.org) | Hp: +65 9002 3930

## 日本で国際バカロレア教育を受ける機会の拡大

日本においてIB教育を受ける機会がさらに広がる  
国際バカロレアと文部科学省との共同プロジェクト

2013年5月22日（日本）－国際バカロレア（IB）と文部科学省（MEXT）は、日本においてIB教育へのアクセスを容易にするIBデュアルランゲージディプロマの開発に取り組む共同プロジェクトの立ち上げを発表しました。プロジェクトは、ハーグのIBグローバルセンターにおける式典の中で、IB事務局長ジェフ・ベアード氏と文科省事務次官山中伸一氏により承認されました。このプロジェクトは、ますます相互依存性が高まり、競争が進むグローバル経済において、企業や産業の場で活躍できるグローバル人材を増やすという文部科学省の目標に端を発しています。

プロジェクトの全体的な目標は、日本の学校よりも多くの生徒が、日本語と英語の両言語を用いて指導・評価するIBディプロマの教育を通して学ぶことができるようにすることです。こうした中で、IBは、IB教育に携わる教育者の増加を視野に置いて、ワークショップを開催し、教師や学校関係者を対象としたIB研修を推し進めていきます。

このプロジェクトを展開していくために、IBは、文部科学省と緊密に連携、協力しながら、日本語をIBディプロマ評価の言語として用いるための環境を整えていきます。また、主なIB文書を翻訳することによって日本語で指導する教科の指導と学習を促進していきます。このような展開により、IBディプロマプログラムを提供する日本の高等学校の数が増加することが予測されます。相当数の日本の高校が、2015年までにIB校として認定されることを見込まれます。これに呼応して、高い学力と21世紀での成功に必要な技能を習得しているIB履修生を歓迎している世界のトップ大学に出願する日本人生徒の増加につながるはずです。

IBデュアルランゲージディプロマの実践を後押しするために、IBは、日本においてバイリンガル試験官やモデレーターを応募し、養成していきます。

IBアジア太平洋地域ディレクターであるイアン・チェンバーズは、次のように語っています。「IBは、文部科学省と長い付き合いがあり、このプロジェクトにより、IBはグローバルな人材資源の育成という日本の計画に不可欠な役割を担うこととなります。IBと文部科学省は、自国や世界に貢献できる探究心、知識、そして、思いやりを兼ね備えた若者の育成という目標を共有しています。」

IBディプロマプログラム（DP）は、16歳から19歳の生徒を対象としており、大学、そして、その先の人生における成功に導くような、学術的に高度で、バランスのとれた教育プログラムです。生徒が知的、社会的、情緒的、身体的に健全に取り組むために考案されています。プログラムは、世界のトップ大学から高く評価されており、入学審査や単位認定の際に認証を受けています。IBディプロマプログラムにおいて、生徒は5つの教科群（言語と文学、言語習得、個人と社会、実験科学、数学とコンピューター科学）からそれぞれ一つの科目を選択し、幅広い知識と理解を確保します。加えて、芸術科目、あるいは、上記の5つの教科群からもう一科目を選択することにより、6教科ディプロマの要件を満たします。さらに、生徒は、4,000語の課題論文（DP科目の一つに関連した課題を探究する）、知の理論（TOK：分析的思考、知ることの本質、人間の創造物としての知識に対する理解を深める）、創造性・活動・奉仕（CAS：生徒が、ディプロマプログラムを通して学習と並行して行っていく様々な活動）に取り組むことになっています。

---

## 国際バカロレアについて

国際バカロレアは、質が高くやりがいのある4つの教育プログラムを世界中の学校に提供している非営利団体です。IBプログラムは、40年以上にわたって、その学術的水準の高さ、グローバル化する21世紀のニーズに対応した人材の輩出、より良く、より平和な世界を作る市民の育成に積極的に携わり、その結果が高い評価を得てきました。現在、144カ国3,557校において、1,089,000名の生徒が4つのIBプログラムに取り組んでいます。詳細は、[www.ibo.org/ibap](http://www.ibo.org/ibap)をご参照ください。